

地球環境学研究科ハンドブック  
〈一般コース学生用〉

2020年度

上智大学大学院

上智大学大学院  
地球環境学研究科ハンドブック

目次

I. 博士前期課程・学事関係

1. トラック、修了要件について	1
2. 指導教員について	1
3. トラック確認について	1
4. 修士論文について	2
5. 修士プロジェクトについて	5
6. 成績評価について	6
7. 早期修了制度について	7

II. 博士後期課程・学事関係

1. 博士論文について	10
2. 講義科目の履修登録	12
3. 博士後期課程の在学可能期間及び論文提出について	12
4. Ph.D.セミナーへの参加	13

III. 学生生活

1. 大学院研究室の利用について	14
2. ロッカーの貸与について	15
3. PCの利用について	15
4. 個人のパソコンを接続する方法について	15
5. 図書の利用について	15
6. 各種奨学金について	15

## I. 博士前期課程・学事関係

### 1. トラック、修了要件について

『大学院履修要綱』の「ガイドページ」および「地球環境学研究科」の記載事項に従うこと。

### 2. 指導教員について

指導教員については以下の要領に従って、必要な手続きを行うこと。

#### ・ 第1学期

第1学期のはじめに、研究テーマと希望調書に基づき指導教員が決定される（詳しくはガイダンス時に説明）。演習は指導教員の開講する演習／SeminarをLoyola上で履修登録すること（指導教員以外の演習／Seminarの履修も可）。本課程を修了するためには、指導教員の開講する演習／Seminarを最低4単位履修すること。

#### ・ 第2学期

演習は指導教員の開講する演習／SeminarをLoyola上で履修登録すること（指導教員以外の演習／Seminarの履修も可）。

指導教員の変更を希望する場合は、変更前・変更後両方の指導教員の了承を得た上で、「指導教員変更届」を変更後の指導教員へ提出すること。指導教員は、原則として第3学期開始時までに変更することができる。

### 3. トラック確認について

#### 【2020年次生以降入学者】

学生は、第1学期の始めに、修士論文トラックか修士プロジェクトトラックを決定し、所定の書式でトラック確認届を事務室（2-1522a室）に提出する。

その後、第3学期開始時までトラックは変更可であるが、その後の変更は認められないので、指導教員とよく相談すること。

#### 【2019年次生以前入学者】

学生は、第1学期は修士論文トラックに登録されている。第2学期の始めに、修士論文トラックを継続するか修士プロジェクトトラックに変更するかを決定し、所定の書式でトラック確認届を事務室（2-1522a室）に提出する。

その後、第3学期開始時まで1回限り再変更可であるが、その後はトラックの変更は認められないので、指導教員とよく相談すること。

## 4. 修士論文について

### ① 修士論文の提出

修士論文の作成および提出にあたっては、以下の要領に従うこと。また、提出にあたっては指導教員から十分な指導を受け、大学院履修要綱、大学院学則、学位規程をよく読んだ上で、間違いのないようにすること。

#### ・ 第2学期（春入学 9月、秋入学 4月）

2019年度以前入学者は「修士論文トラック継続届出書」（論文題目、論文概要）を指導教員に提出。

#### ・ 第3学期（春入学 4月、秋入学 10月）

2020年度以降入学者は「修士論文題目届出書」（変更可能）と執筆方針を指導教員へ提出。第3学期の終わりに開催されるTurnitin説明会に参加するとともに、修士論文構想発表会で論文の構想及び進捗を発表すること。

#### ・ 第4学期（春入学 10月、秋入学 4月）

「修士論文題目届出書」（最終題目、変更不可）及び「修士論文概要」（1500字程度）（A4様式自由）を指導教員へ提出。

2019年度以前入学者は第4学期（修士論文を提出する学期）のはじめに開催されるTurnitin説明会に参加するとともに、修士論文構想発表会で論文の構想及び進捗を発表すること。

### ② 修士論文の履修登録

修士論文を提出する学期（最終学期）の履修登録期間にLoyola上で「修士論文」の履修登録をすること。

### ③ 修士論文の体裁・最低枚数

- ・ 使用言語は日本語または英語とする。外国語の試験は、母国語以外の言語で、英語、日本語のいずれか1ヶ国語について実施する。試験方法は、当該言語で書かれた修士論文要旨をもって評価する。
- ・ 論文は、本文が日本語の場合30ページ以上、英語の場合は17,000ワード以上とする。図表は、独自に作成したものに限り、該当するページ数あるいはワード数に加えることを認める。
- ・ 論文のフォーマットは、日本語で書かれた論文についてはA4横書き、フォントはMS明朝、10.5ポイント、1行40文字、1ページ35行、片面印刷とし、英語で書かれた論文についてはA4横書き、フォントは Times New Roman 12ポイント、行間1.5行、片面印刷とする。いずれの場合も、左に製本のためのスペースを適宜設けること。
- ・ 他人の論文、書籍やWebサイトからの引用や参照にあたっては、注記をつけて資料の出所を明らかにすること。文献リストの書式については指導教員の指示に従うこと。
- ・ 別紙に、論文のタイトルおよび要旨（日本語および英語の両方。日本語は2000字、英文は850ワード程度）を記載し、論文本体の最初に添付すること。
- ・ タイトルページ（論文題目[日本語のみ]、研究科・専攻名、提出者氏名、学生番号を明記）をつけること。

#### ④ 提出手続

- ・ 研究科掲示板及びLoyolaに掲示される「公示」をよく読んで論文を準備すること。
- ・ 論文完成後、Turnitin（剽窃防止ソフト）を論文提出締切日の2日前までに適用し、指導教員にその結果を報告すること。
- ・ 論文本体を修士論文提出期限までに学事センターに提出する。
- ・ 提出に際しては、論文本体を3部作成し、いずれもファイル（締切の約1ヶ月前から研究科事務室で配布）に装着し、表紙に、20\_\_年度学位論文、論文題目（日本語のみ）、研究科・専攻名、博士前期課程、提出者氏名、学生番号を明記すること。また、3部すべてを輪ゴムでとめること。
- ・ 論文題目については、論文本体のタイトルページ、表紙、提出票、研究科に届け出た題目が文字、句読点、記号を含めてすべて完全に一致すること。誤記、変換ミス等に注意すること。
- ・ その他の事項について「大学院履修要綱」を十分に参照すること。
- ・ さらに論文一部とその論文をPDF形式でCD-ROMに保存し、研究科事務室に提出すること。

#### ⑤ 提出期限

- ・ 4月入学（3月卒業）：2年次1月中旬　　9月入学（9月卒業）：2年次7月初旬  
\*いずれも正式な日程は公示（Loyola、掲示板）によって通知する。
- ・ 論文は学事センターに提出すること。午後3時半に学事センターは窓口を閉鎖する。それ以後の受領は一切できないので（結果として論文未提出、留年となる）、全ての提出物が完成した後に十分な時間を見込んで、準備を済ませること。
- ・ Turnitin（剽窃防止ソフト）を論文提出締切日の2日前までに適用し、指導教員にその結果を報告すること。

#### ⑥ 口述試験

- ・ 口述試験を1月下旬（春入学）または7月下旬（秋入学）に実施する。具体的な日時および面接時間等については、Loyola及び掲示を確認すること。
- ・ 口述試験は、全員が受験しなければならない。
- ・ 試験は3名の教員が試験委員となり、1名20分程度で実施する。

#### ⑦ 評価項目（評価のポイント）

（1）修士論文の評価にあたっては、以下の観点をもとに、A、B、C、D、Fの評価を行う。

1. 問題設定：問題意識が明確で、今日の環境問題を解決するために解明すべきテーマを適切に設定できる。
2. 先行研究の理解：テーマに対する現在までの先行業績、学術研究の到達点を適切に把握している。
3. 独創性：問題にアプローチするための前提としてのオリジナルな仮説を適切に設定することができること、あるいは、独創的な、新しい、ユニークな着想や発想をすることができる。
4. 研究方法：仮説を検証するために独自に収集したデータ、新しい資料の発掘など論証方法に工夫をこらすことができる。また、アプローチの仕方として、社会科学や自然科学の

複数の領域にまたがる知識の総合化や理論と実践のフィードバックなどの手法を駆使することができる。

5. 論文構成：論文の構成、章立て、立証方法などを分かりやすく構成され整理され、説得力のある論理展開ができ、問題提起、途中の推論、結論を整合させ、自己の分析を総合的に記述することができる。
6. 倫理的配慮：研究方法の適切性に留意し、研究対象に対する適切な倫理的配慮を行うとともに、各種学会、大学等が定める倫理基準を満たすことができる。
7. 形式面：関連する多くの資料を良く網羅し、出典を明示し、正確な引用ができる。また、優れた文章表現ができ、指定するフォーマットの成果物を得る。
8. 語学力：必要な外国語の知識が身についている。

評価A：上記の評価項目に照らし、きわめて優れている

評価B：上記の評価項目に照らし、優れている

評価C：上記の評価項目に照らし、普通である

評価D：上記の評価項目に照らし、合格である

評価F：上記の評価項目に照らし、不合格である

#### ⑧ 剽窃・盗用の防止について

他人の研究成果を自分の研究成果と偽って提出・発表することは剽窃もしくは盗用であり、学問の世界では最も恥ずべき不正行為である。修士論文、および修士プロジェクトにおいて、剽窃・盗用行為は決して行ってはならない。発覚した場合には厳重な処分の対象となる。

#### ⑨ 修士論文の訂正について

提出された修士論文は訂正できないことを原則とするが、特別の事情がある場合には修正を認める。ただし修正は以下の手続きに従うものとする。

- ・ 修士論文の評価は提出された論文に対しておこなう。訂正を前提とした評価はおこなわない。
- ・ 提出された修士論文の訂正は、論文の基本的内容を変更しないものに限って、研究科委員会の承認のもとにおこなうことができる。
- ・ 訂正を希望する学生は、訂正に関わる提出済の論文箇所と訂正内容を明記した「修士論文訂正願」を、指導教員の署名を得た上で、定められた期日までに事務室へ提出する。
- ・ 訂正の可否を修了判定研究科委員会で審議し、訂正が承認された場合は、承認が決定された修了判定研究科委員会から1週間以内に訂正済みの修士論文を指導教員に提出し確認を得た上で、再提出する。

#### ⑩ 『地球環境学ジャーナル』への投稿について

A 評価を受けた論文（優秀論文）の執筆者は、『地球環境学ジャーナル（電子版）』に修士論文を掲載することができる。掲載を希望する者は、指導教員の指導を十分に受けたうえで提出すること。

<https://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/>

- ・ 本ジャーナルは、冊子体ではなく上智大学学術情報リポジトリ（上記 URL）において PDF 形式で掲載する。掲載ページへのアクセスは、学内ネットワークからのみ可能。
- ・ 本ジャーナルに論文を掲載した場合、学術上の倫理規範における二重投稿防止のため、他の雑

誌や学会で同一の論文を発表できないことに留意すること。

## 5. 修士プロジェクトについて

### ① 修士プロジェクトの履修登録

修士プロジェクト（リサーチペーパー）を提出する学期（最終学期）の履修登録期間にLoyola上で「修士プロジェクト」の履修登録をすること。

### ② 修士プロジェクトの提出

修士プロジェクトの作成および提出にあたっては、以下の要領に従うこと。また、提出にあたっては指導教員から十分な指導を受けること。

- ・ **第2学期（春入学9月、秋入学4月）**  
2019年度以前入学者は「修士プロジェクトトラックへの変更届出書」を指導教員に提出する。
- ・ **第3学期**  
2020年度以降入学者は「リサーチペーパー題目届」を提出し、第3学期の終わりに開催されるTurnitin説明会に参加する。
- ・ **最終学期 1ヶ月目**  
研究テーマについて、指導教員と相談し、研究概要、リサーチペーパーのアウトライン、参考文献を提出する。  
2019年度以前入学者は第4学期のはじめに開催されるTurnitin説明会に参加する。
- ・ **最終学期 2-3ヶ月目**  
指導教員の指導のもとに研究及び調査を進め、リサーチペーパーを執筆する。
- ・ **最終学期 4ヶ月目**  
第一稿を指導教員に提出する。指導教員のコメントに基づき最終稿を作成し、指定された締切までに、指導教員に提出すること。
- ・ **Turnitin（剽窃防止ソフト）**を提出締切日の2日前までに適用し、指導教員にその結果を報告すること。

### ③ 提出期限

4月入学（3月卒業）：1月下旬　　9月入学（9月卒業）：7月下旬

\*いずれも正式な日程はLoyola掲示板で通知する。

### ④ 修士プロジェクトの体裁・最低枚数

- ・ 使用言語は日本語、または英語とする。英語で書く場合の体裁は、本ハンドブック英語版P.7「5. Graduation Project」の「(4) Format of the Research Paper」を参照すること。
- ・ 原則としてA4で20枚以上とする。図表は、独自に作成したものに限り、該当するページあるいはワード数に加えることを認める。
- ・ フォーマットは、A4横書き、フォントはMS明朝、10.5ポイント、1行40文字、1ページ35行、片面印刷とする。用紙の左側に製本のためのスペースを適宜設けること。

- ・ リサーチペーパーのタイトルおよび要旨（約1000字）を記載し、本体の最初に添付すること。
- ・ タイトルページ（リサーチペーパー題目、研究科・専攻名、提出者氏名、学生番号を明記）をつけること。

#### ⑤ 評価項目（評価のポイント）

修士プロジェクトの評価に当たっては、以下の観点をもとに、A、B、C、D、Fの評価を行う。

1. 問題設定：問題意識が明確で、今日の環境問題を解決するために解明すべきテーマを適切に設定できる。
2. 先行研究の理解：テーマに対する現在までの先行業績、学術研究の到達点を適切に把握している。
3. 研究方法：仮説を検証するために独自に収集したデータ、新しい資料の発掘など論証方法に工夫をこらすことができる。また、アプローチの仕方として、社会科学や自然科学の複数の領域にまたがる知識の総合化や理論と実践のフィードバックなどの手法を駆使することができる。
4. 論文構成：論文の構成、章立て、立証方法などを分かりやすく構成され整理され、説得力のある論理展開ができ、問題提起、途中の推論、結論を整合させ、自己の分析を総合的に記述することに成功する。
5. 倫理的配慮：研究方法の適切性に留意し、研究対象に対する適切な倫理的配慮を行うとともに、各種学会、大学等が定める倫理基準を満たすことができる。
6. 形式面：関連する多くの資料を良く網羅し、出典を明示し、正確な引用ができる。また、優れた文章表現ができ、指定するフォーマットの成果物を得る。
7. 語学力：必要な外国語の知識が身につけている。

評価A：上記の評価項目に照らし、きわめて優れている

評価B：上記の評価項目に照らし、優れている

評価C：上記の評価項目に照らし、普通である

評価D：上記の評価項目に照らし、合格である

評価F：上記の評価項目に照らし、不合格である

#### ⑥ 剽窃・盗用の防止について

他人の研究成果を自分の研究成果と偽って提出・発表することは剽窃もしくは盗用であり、学問の世界では最も恥ずべき不正行為である。修士論文、および修士プロジェクトにおいて、剽窃・盗用行為は決して行ってはならない。発覚した場合には厳重な処分の対象となる。

## 6. 成績評価について

### ① 成績評価の基準

講義諸科目の試験成績の評価は次の基準によりおこなう。

- Aは20パーセント以下とする。
- Bは10パーセント以上30パーセント以下とする。

上記評価割合は、レポートなどによる成績評価にも適用する。ただし、演習／Seminar 科目及び学



生数 30 名以下の講義科目は除く。

② 成績評価の方法

成績評価は絶対評価のみによることなく、相対評価を加味して、最終的にこれを行う。

③ その他

- ・ 科目の履修について、正当な理由がなく第2学期までに10単位以上取得していない場合には、退学を勧告する。
- ・ 試験、レポートにおける不正行為については、厳に慎むように。不正行為が発覚した場合には、当該科目のみならず学期中のすべての単位を不可とする措置も検討する。

## 7. 早期修了制度について

### 【20年次生以降】

- ・ 早期修了制度は修士論文トラック、修士プロジェクトトラックともに適用される。
- ・ 早期修了希望者は修了を希望する最終学期(2 学期もしくは 3 学期目)の履修登録期間中に「早期修了希望届」を地球環境学研究科事務室に提出し、早期修了希望者として登録すること。
- ・ 修了に必要な単位をすべて修得することとし、かつG P Aが 3.8 以上あること。
- ・ 修士論文もしくはリサーチペーパーの評価がAであること。

### 【19年次生以前】

- ・ 早期修了制度は修士論文トラックにのみ適用される。
- ・ 早期修了希望時期の遅くとも 1 年前に研究科委員長に申し出て、早期修了希望者として登録すること。
- ・ 修了に必要な単位をすべて修得することとし、かつG P Aが 3.8 以上あること。
- ・ 修士論文の評価がAであること。

博士前期課程・履修計画表【20年次生以降】

		第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	
入 学	修士論文 トラック	<p>&lt;4月/9月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス出席</li> <li>・履修登録</li> <li>・指導教員の決定</li> </ul>	<p>&lt;10月/4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・論文のテーマを決定</li> <li>・履修登録</li> </ul>	<p>&lt;4月/10月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文題目届の提出</li> <li>・トラック変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・履修登録</li> </ul> <p>&lt;7月/1月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Turnitin説明会参加</li> <li>・修士論文構想発表会で発表</li> </ul>	<p>&lt;10月/4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修登録&amp;修士論文の登録</li> <li>・修士論文題目届（最終）、論文概要を提出</li> </ul> <p>&lt;1月/7月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文提出、口述試験</li> <li>・地球環境ジャーナルへの投稿（該当者のみ）</li> </ul>	修 了
	修士プロ ジェクト トラック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック確認届の提出</li> </ul>	<p>&lt;10月/4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・リサーチペーパーのテーマを決定</li> <li>・履修登録</li> </ul>	<p>&lt;4月/10月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパー題目届</li> <li>・トラック変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・履修登録</li> </ul> <p>&lt;7月/1月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Turnitin説明会参加</li> </ul>	<p>&lt;10月/4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修登録&amp;修士プロジェクトの登録</li> <li>・リサーチペーパー題目届（最終）を提出</li> </ul> <p>&lt;1月/7月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパー提出</li> </ul>	

博士前期課程・履修計画表【19年次生以前】

	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	
入 学		<p>&lt;10月／4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文トラック</li> <li>・トラック確認届の提出</li> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・論文のテーマを決定</li> <li>・履修登録</li> </ul>	<p>&lt;4月／10月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文題目届（第2次）の提出</li> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・トラック再変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・履修登録</li> </ul>	<p>&lt;10月／4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修登録&amp;修士論文の登録</li> <li>・修士論文題目届（最終）、論文概要を提出</li> <li>・Turnitin説明会参加</li> <li>・修士論文構想発表会で発表</li> </ul> <p>&lt;1月／7月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文提出、口述試験</li> <li>・地球環境ジャーナルへの投稿（該当者のみ）</li> </ul>	修 了
	<p>&lt;4月／9月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス出席</li> <li>・履修登録</li> <li>・指導教員の決定</li> </ul>	<p>&lt;10月／4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修士プロジェクト</li> <li>・トラック確認届の提出</li> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・リサーチペーパーのテーマを決定</li> <li>・履修登録</li> </ul>	<p>&lt;4月／10月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・トラック再変更届（必要な場合のみ）</li> <li>・履修登録</li> </ul>	<p>&lt;10月／4月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修登録&amp;修士プロジェクトの登録</li> <li>・リサーチペーパーの概要、参考文献等を指導教員に提出</li> <li>・Turnitin説明会参加</li> </ul> <p>&lt;1月／7月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパー提出</li> </ul>	

## Ⅱ. 博士後期課程・学事関係

### 1. 博士論文について

#### ① 博士論文の提出日程

博士論文の作成にあたっては、以下の要領に従うこと。また、提出にあたっては、指導教員と十分に打ち合わせた上で、大学院学則、学位規程をよく読み、間違いのないようにすること。

##### (1) 博士論文提出前の手続き

###### 博士後期課程1年次開始月

「論文題目」（仮題で可。変更可能）を指導教員へ提出。

###### 博士後期課程2年次開始月

博士論文構想発表会：パワーポイント、資料などを用いての説明（30分報告、10分質疑討議）。報告にあたっては、指導教員とよく打ち合わせる事。

###### 博士後期課程2年次最終月

博士論文提出資格論文の提出（提出資格論文の様式等については、後述）。

###### 博士後期課程3年次

博士論文の提出に先立って、完成した博士論文を3年次の9月末（秋入学：3月末）までに指導教員まで提出し、研究科委員会の議決をへて提出の内諾を得なければならない。中間報告会に参加し、資格を得た者について論文の提出を行うことができる。

##### (2) 博士論文提出手続き

###### 博士後期課程3年次10月

博士論文（本体）の提出。

研究科委員会において博士論文の提出を認められた場合には、3年次10月（秋入学：4月）までに博士論文を提出し、すべての審査に合格した場合、3年次最終月の学位授与式において、課程博士の学位が授与される。

#### ② 博士論文構想発表

パワーポイント、資料などを用いて博士論文の構想を説明する（30分報告、10分質疑討議）。プロジェクト等を使用する場合は発表時間までに準備を完了しておくこと。発表者は構想のレジюме、参考資料等を各自準備し、配布すること。

※博士後期課程構想発表時の合否判定について【2019年度春学期以降の入学者のみ対象】

構想発表会においては、その報告内容に基づき、合否を付すこととする。不合格の場合は、1回に限り再度発表を行えるものとする。ただし、2回目の発表は、最初の発表から1年以内とする。

#### ③ 博士論文提出資格論文の提出

博士論文提出資格論文は、博士後期課程在学中の学生が必要な期間内に最終審査にふさわしい論文を提出できるかどうかを評価するためのものである。博士論文提出資格論文は、提出予定の学位論文の単なる概要ではなく、具体的に博士論文を構成するいくつかの章を含むなど、それまでの研究内容の水準を適切に評価することが可能なものでなければならない。

- ・使用言語は日本語または英語とする。
- ・論文のフォーマットは、日本語で書かれた論文についてはA4横書き、フォントはMS明朝、10.5ポイント、1行40文字、1ページ35行、行間1.5行、余白左右3cm・上下2.5cm、片面印刷とし、英語で書かれた論文についてはA4横書き、フォントはTimes New Roman、12ポイント、行間1.5行、余白左右3cm・上下2.5cm、片面印刷とする。
- ・タイトルページ（論文題目、指導教員名、提出者氏名、学生番号を明記）をつける。
- ・枚数は特に指定しない。
- ・提出部数：1部

#### ④ 博士論文の提出要件【2019年度春学期以降の入学者のみ対象】

博士課程在籍者が論文を提出するにあたって、以下のいずれかの実績を備えることとする。その実績を証明する書類を論文提出前に指導教員に提出し、確認を得ること。ただし、指導教員による追加的要件の指示があった場合は、それに従うものとする。

1. 国際学会等における英語での口頭発表
2. 査読付き学術雑誌に投稿し掲載が決まった論文（掲載が認められているものの未刊行の場合には、投稿原稿と当該学術雑誌刊行団体発行の掲載許可書を提出する）

#### ⑤ 博士論文の体裁

- ・使用言語は日本語または英語とする。
- ・論文のフォーマットは、日本語で書かれた論文についてはA4横書き、フォントはMS明朝、10.5ポイント、1行40文字、1ページ35行、片面印刷とし、英語で書かれた論文についてはA4横書き、フォントはTimes New Roman、12ポイント、1ページ25行、余白左右3cm・上下2.5cm、片面印刷とする。
- ・タイトルページ（20\_\_学位論文、論文題目(日本語のみ)、研究科・専攻名、博士後期課程、提出者氏名、学生番号を明記）をつけること。
- ・満期退学者については、学事センターが指定するフォーマットによること。

#### ⑥ 博士論文審査基準

自立した研究者として研究を継続遂行し、当該分野・領域の研究において、将来にわたり独自の貢献を行うことができる能力を有することが認められ、以下の基準を高い水準で満たしていること。

1. 問題設定： 問題意識が明確で、今日の環境問題を解決するために解明すべきテーマを適切に設定できる。
2. 先行研究の理解： テーマに対する現在までの先行業績、学術研究の到達点を適切に把握している。
3. 独創性： 問題にアプローチするための前提としてのオリジナルな仮説を適切に設定することができること、あるいは、独創的な、新しい、ユニークな着想や発想をすることができる。
4. 研究方法： 仮説を検証するために独自に収集したデータ、新しい資料の発掘など論証方法に工夫をこらすことができる。また、アプローチの仕方として、社会科学や自然科学の複数の

領域にまたがる知識の総合化や理論と実践のフィードバックなどの手法を駆使することができる。

5. 論文構成： 論文の構成、章立て、立証方法などを分かりやすく構成され整理され、説得力のある論理展開ができ、問題提起、途中の推論、結論を整合させ、自己の分析を総合的に記述することに成功する。
6. 倫理的配慮： 研究方法の適切性に留意し、研究対象に対する適切な倫理的配慮を行うとともに、各種学会、大学等が定める倫理基準を満たすことができる。
7. 形式面： 関連する多くの資料を良く網羅し、出典を明示し、正確な引用ができる。また、優れた文章表現ができ、指定するフォーマットの成果物を得る。
8. 語学力： 必要な外国語の知識が身につけている。

なお、大学院地球環境学研究科内規に基づき、専攻における規定の審査過程を経たものであること。

## 2. 講義科目の履修登録

2018 年度より、博士後期課程については、論文指導に加えて、新たにコースワークが設置された。履修登録期間内に必ず登録を行い、在学期間中に指導教員の科目を含め、6 単位以上取得すること。修了に必要な単位として算入できるのは、後期課程開講科目のみとなる。前期課程開講科目の履修は可能だが、修了単位とならないので注意すること。

## 3. 博士後期課程の在学可能期間及び論文提出について

- ① 博士後期課程の在学可能期間は 5 年とする（休学期間を除く）。3 年以上在学し、学位論文の提出のみを残している場合は、学費が減額される。
- ② 3 年次以降に博士論文提出資格論文の審査に合格した者は、所定の手続きを経れば満期退学が可能である。ただし、満期退学の時点で、在学可能期間のうち最低 1 学期の在学期間を残していることが条件である。満期退学後、論文再入学することにより論文提出が可能となる。満期退学及び論文再入学の手続については、履修要綱及び以下【参考】を参照。
- ③ 退学、休学した場合には、「留学」の在留資格が取消の対象となるため、留学生は注意すること。

【参考】研究科「博士論文提出資格の判定について（内規）」抜粋

3. 博士後期課程の在学期間 3 年を満了した以降に、本論文の提出を希望する者

II. 2014 年度以降に入学したもの

- (1) 3 年の博士後期課程の在学期間を満了した者で、課程博士の学位を取得したいものは、大学の定める所定の「満期退学願」を、3 年次の 1 月末（秋学期入学者は 7 月末）もしくは退学日の 1 ヶ月前までに専攻主任に提出し、審査を受けなければならない。
- (2) 専攻主任は、3 年次の 9 月末（秋学期入学者は 3 月末）までに資格論文を提出または再提出し、本論

文提出の資格があると判断された者から「満期退学願」が提出された場合には、申請を受理し学長に通知し、学長の決裁を受けるものとする。

(3) 満期退学者は退学後3年以内であれば、課程博士取得のための再入学制度の適用を受けることができる。

#### 4. Ph.D. セミナーへの参加

研究指導の一環として、後期課程の学生を対象に月1回程度、Ph.D. セミナーを開催する。学生は参加すること。

### Ⅲ. 学生生活

#### 1. 大学院研究室の利用について

大学院地球環境学研究室（以下「研究室」と呼ぶ）は図書館内に2か所ある。3階 L-312 室（内線 4715）は、主に博士前期課程の大学院生用の研究室であり、2階 L-211 室（内線 3288）は、博士後期課程の大学院生用の研究室であるが、研究生、交換留学生、その他研究科委員長が認めた者が利用できる。ロッカー（個人用）、PC（共用・2階研究室のみ）、プリンタ（共用）、環境関連の図書（研究室閲覧のみ）を備えている。個人の持ち込み PC（フリーWi-Fiあり）も利用できる。

開室時間：8:00－22:00（年末年始、停電時、入試期間は閉室する）

研究室の鍵の受け渡し：

その日の最初の利用者が午前8時以降に図書館1階の受付（守衛所）に立ち寄り、学生証を提示し、鍵を受け取り開ける。その日の最後の利用者が鍵を閉めて午後10時までに1階の受付（守衛所）に返す。盗難の被害を防ぐため、研究室が無人になる場合は鍵を閉め、1階の受付（守衛所）に預けること。

図書館員による立ち入り調査：

年に2回（7月、12月）、図書館員による貸出未手続き資料立ち入り調査がある。

<研究室使用についての注意事項>

##### ◆全体

- ・ 図書館内は研究室を含め全館飲食禁止である。ペットボトル、コーヒー、食べ物等の持ち込みは認められていない。
- ・ 研究室は節度を持って利用すること。フリースペースである机上には、私物、書物等を放置せず所定の手続きを経て持ち帰るか、ロッカーにしまうこと。放置されているものはゴミとみなす。
- ・ 自主的に定期的に掃除すること。
- ・ おしゃべりは慎むこと。真剣に勉強している人の妨げになるので、図書館地下1階にあるグループ学習室を利用すること。
- ・ 盗難の被害にあわないよう、各自、貴重品は研究室に置かずに、身につけること。
- ・ 鍵の管理に責任を持つこと。
- ・ 研究科からの連絡事項は、研究室内掲示板、事務室前掲示板、Loyola で定期的に確認すること。
- ・ 図書館の蔵書を研究室に持ち込む際は、必ず事前に貸出手続を済ませること。禁帯出の雑誌やレファレンス資料を研究室に持ち込むことは認められていない。

##### ◆ゴミ処理

- ・ ゴミは、研究室内のゴミ箱へ分別して捨てること。
- ・ ゴミ箱が満杯になった時は、研究室の外（出入口付近）にゴミを袋ごと出し、ゴミ箱には新しいゴミ袋を配置すること。

##### ◆共有 PC およびプリンタ



- ・ 研究室内に配置している共用プリンタの用紙、トナーがなくなった場合は、研究科事務室(2-1522a室)に取りに行くこと。
- ・ プリントミスした印刷物については、指定の古紙箱（片面／両面印刷用）に分けて入れること。
- ・ 指定の古紙箱が満杯になった時は、図書館内のコピー室に設置されているリサイクル用ワゴンに持っていくこと。

## 2. ロッカーの貸与について

研究室には研究環境の向上と研究の進展を目的としてロッカーを設置している。ロッカーの鍵は1年次4月（秋入学は9月）に貸与する。修了時の2月末日（秋入学は8月末日）又は退学時に返却すること。

## 3. PCの利用について

研究室には研究環境の向上と研究の進展を目的として共用のPCを設置している。

- (1) 原則として、学内のコンピュータールームを利用すること。
- (2) パソコンに残されたデータは消去されるので、必ず外部メディアに保存すること。
- (3) 利用は研究目的に限る。不正が発見された場合は利用停止のペナルティが与えられる。
- (4) プリンタで同じものを2部以上出力してはならない。2部以上必要な場合は、コピーすること。
- (5) トナーやプリンタ用紙がなくなった場合は、研究科事務室に取りに行くこと。紙づまりなどの対応は自分で行き放置しないこと。
- (6) 利用後は、PC本体と液晶モニターの電源をOFFにすること。

## 4. 個人のパソコンを接続する方法について

研究室に持ち込んだ自分のノートパソコンに必要な設定をすることで、総合メディアセンターの学内ネットワークを利用することができる。別紙「無線LANサービスの手引き」（総合メディアセンター発行）を参照すること。

## 5. 図書の利用について

研究室に設置した図書は研究室内のみの閲覧が認められている。館外に持ち出すことはできない。図書館出口でアラームがなる仕組みになっている。利用後はその日のうちに必ずもとの書架に戻すこと。購入希望図書は指導教員または専攻主任に申し出ること。

## 6. 各種奨学金について

奨学金については学生センターの掲示やホームページを見ること。経済支援についての相談は学生センター（2号館1階）で受け付けている。